
恐怖のポスト

緒方 零

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恐怖のポスト

【ZINE】

Z3580F

【作者名】

緒方 零

【あらすじ】

高校で毎日、憂鬱な日々を過ごしている。バシられたりする生活がいやになつて来た頃、恐怖のポストと言っていたポストに・・・?

町外れに存在する普通のポスト。
そのポストの後ろの箱に殺したい人の名前を入れて置くと殺してくれるんだって。

代償なんてないし殺して欲しい時間や場所、殺され方なんかも書いておける。

まるで、デスノートだよね。

ハガキじゃないと駄目なんだって。

表に殺したい人の名前、裏に殺し方や時間を書き込む。

簡単だよね。こんなんで人が死ぬんنたさ。

「ねえ尾川原あ、あのジュース買つてくれない?」

「え・・・?」

「いいねえ、うちはサイダーね

「え、あの・・・」

「早く行つてこいよ」

パシリに使われた尾川原花梨は渋々、自動販売機に向かった。

「あの、買つてきました」

花梨が一人にジュースを渡すと、手から奪つて無言で去つていった。

一人の後ろ姿を睨みつけていた。

「相沢夕紀と黒川実。二人とも死ねばいいのに」

そして、思いついたのはあの恐怖のポスト。

花梨はコンビニに寄り、ハガキを2枚買い家に帰った。

「二人ともを殺し合ひにしようかな」

一枚目の表に相沢夕紀、裏に「5時間後、黒川実を倉庫に呼び出し果物ナイフを取り出して刺そうとするが逆に刺される」

一枚目の表に黒川実、裏に「5時間後、相沢夕紀に呼び出されナイフで刺されそうになるが、抵抗し相沢夕紀を殺す。動搖して自分も刺し自殺をする」

そう書き、花梨は例の町外れのポストに向かつた。

ポストが見えてくると人影があつた。反射的に建物に隠れ人を見ると相沢と黒川がポストの前に立っている。

「何で、相沢と黒川が・・・」

二人はポストに何かを入れ、その場を去つていった。
花梨はいなくなつたのを確認し、ポストに向かつた。そして、さつき一人が入れた紙を取り出す。
取り出したのはハガキだつた。

内容は表に尾川原花梨、自分の名前だつた。

勇気を振り絞つて裏を見てみた。内容は「遅刻して学校に着き教室に入つたら先生が衝撃なことを言い出し、それに動搖してみんな

の前で自殺をする

そう書かれていて一瞬、頭が真っ白になつた。

「これを箱から出さなかつたら私は死んでた？」

さりに一人に憎しみが生まれる。

あいつらは死なないといけない人間なんだ。

そして花梨は手に持っているハガキを入れた。

逃げるよつにその場を去つて。

次の日、私は遅刻をした。

たまにはあるだらうと思い、ゆつくり朝ご飯を食べ学校に向かう。

学校に着き教室に入ると先生や生徒の顔色が悪い。
何かおかしいと思い「どうしたんですか？」と先生に言つと衝撃的なことが口から出る。

「相沢と黒川が亡くなつたんだ」

「え？」

それは私にとつて衝撃的な言葉だつた。

その後の記憶は覚えていない。ただ、生徒たちが急に叫びだし教室から逃げていくのを見ただけだつた。

あの時、怒りに震えていた花梨は気づかなかつた。
自分の名前が書かれたハガキを一人のハガキと一緒に入れていたのを。

花梨は無駄死にし、16年という短い生涯を終えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3580f/>

恐怖のポスト

2011年1月18日22時25分発行